

[6] 高原町小体連 (学校数 4校 児童数 427名)

I 年間事業

月 日	回	内 容
6月 4日 (木)	第1回	役員選出、規約の確認、年間計画等、県小体連理事会・専門部会報告
7月 2日 (木)	第2回	本年度の研究について、水泳大会計画案作成
7月27日 (月)	第3回	水泳大会前日準備、名簿等作成
7月28日 (火)	第4回	水泳大会実施、水泳大会反省 ※予備日：29日 (水)
8月25日 (火)	第5回	陸上大会計画案作成
10月19日 (月)	第6回	陸上大会前日準備、名簿作成等
10月20日 (火)	第7回	陸上大会実施、陸上大会反省 ※予備日：22日 (木)
12月17日 (木)	第8回	本年度の取組のまとめ
2月25日 (木)	第9回	本年度の反省、次年度への引き継ぎ、会計報告等

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

(1) 大会名 平成27年度高原町小学校体育連盟水泳大会

(2) 平成27年7月28日 (火)

(3) 会 場 高原町立高原小学校プール

(4) 高原町内各小学校5・6年生代表児童 (延べ人数 約100名)

(5) 実施種目

- ・ 25m (自由形、平泳ぎ) ・ 50m (自由形、平泳ぎ)
- ・ 200mリレー

(6) 競技方法

- タイムレースとする。
- 出場は、リレーを除いて一人2種目まで参加可能とする。
- 競技は、学年別、男女別を実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日 程

開会式 9 : 00

競技開始 9 : 35

競技終了 10 : 45

閉会式終了 11 : 00

(8) 表彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

(9) 反省

5つの大会新記録が出て、3名の児童が標準記録を突破するなど、充実した大会となった。また、他校の児童を応援する姿が多く見られるなど、記録のみならず児童の大会に対する高い意識が会場の雰囲気を高めていた。平泳ぎの参加人数が増加の傾向にあるため、来年度も各学校での平泳ぎ指導の継続的な強化が望まれる。また、大会のルールについても事前に理事会で検討の上、各学校への周知徹底が必要となる。

2 陸上大会

(1) 大会名 平成27年高原町小学校体育連盟陸上大会

(2) 実施日 平成27年10月20日(火)

(3) 会場 高原町立高原小学校運動場

(4) 出場者 高原町内小学校5・6年生児童(延べ人数 約140名)

(5) 実施種目

- ・ 一般走100m(5・6年生男女)
- ・ 800m走(5・6年生女子)
- ・ 400mリレー(5・6年生混合男女)
- ・ 走り高跳び(6年生男女)
- ・ ソフトボール投げ(5・6年生男女)
- ・ 選抜走100m(5・6年生男女)
- ・ 1000m走(5・6年生男子)
- ・ 走り幅跳び(5・6年生男女)

(6) 競技方法

- 出場は、一人2種目まで参加可能とする。2種目出場の際は、トラック競技とフィールド競技の各1種目ずつとし、トラック競技のみ、あるいはフィールド競技のみ2種目としないようにする。また、リレーに出場する場合のみ、3種目まで出場できるものとする。
- 競技は、学年別、男女別に実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日程

開会式 9:00

競技開始 9:35

競技終了 11:00

閉会式終了 11:45

(8) 表彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

(9) 反省

天候を心配していたが当日は晴天に恵まれた。高原町内の小学5・6年生が一堂に結集し、大変盛り上がる大会となった。6つの大会新記録が出て、1名の児童が標準記録を突破するなど、充実した大会となった。昨年の反省を受けて競技規則を事前に配付したことで、細部までルールの周知を図ることができた。一方、テイクオーバーゾーンの審判の配置や各係の引き継ぎの在り方など反省点も挙げられたため次年度は改善を図りたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組む児童の育成」

ー運動の日常化につながる体育科の指導を通してー

2 主題設定の理由

近年、科学やメディア、コンピュータなどの技術の進歩は著しく、児童の生活もコンピュータやゲーム、スマートフォンなどの影響で変化してきている。それに伴い、積極的にスポーツする子どもとそうでない子どもの2極化が顕著に認められている。本県の児童の体力・運動能力については、過去10年間でほとんどの項目が上昇傾向を示しているが、昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は低い状態にあり、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ことが本県の課題として取りあげられている。

また、高原町では、「心身の教育を基盤とした学力向上とふるさと教育の充実」を目標に小中一貫教育を推進している。その中の体育部会においては、目指す児童生徒の姿を「体力の向上に取り組み、健康で安全な生活習慣を身に付けた児童生徒」とし、町全体でも児童生徒の体力の向上に取り組んでいる。

「体力の向上」のためには、体育の授業の充実とともに、日頃の生活の中で日常的に体を動かし、特に体育の授業では、運動の特性に触れさせながら体を動かすことの楽しさや、友達と関わることの楽しさを味わわせることが大切である。そのためには、児童自らが課題をもち、それを解決するために友達と関わり合いながら意欲的に運動に取り組み、「運動が楽しい」「体育が楽しい」と感じることができると授業の工夫・改善が必要である。そのことが、日常的に運動に親しむ資質や能力の基礎となり、運動の日常化へとつながり、体力の向上を図ることができると考え、本主題を設定した。

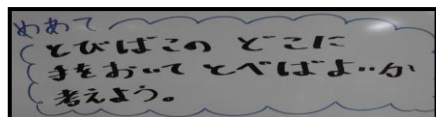
3 研究仮説

体育科の授業において、課題を明確にし、友達との関わりの中で課題について話し合い、課題解決に向けて意欲的に運動を行えば、児童のそれぞれの運動に対する満足感が高まり、進んで日常的に体力向上に取り組むであろう。

4 研究の実際（各小学校における取組）

(1) 課題を明確にした学習の流れ（「めあて」「まとめ」の提示）

- 学習のめあてを掲示し、児童がいつでも課題を確認しながら学習を進めることができるようにした。（写真1・2）
- 授業のまとめと併せて次時の課題も提示し、次時への意欲を高めるようにした。
- ワークシートを作成し、目標とそれに対する感想等を書かせるようにした。



【写真1：高原小】



【写真2：後川内小】

(2) 友達との関わりの充実（言語活動の充実）

- グループ学習を中心に授業を進め、言語活動の充実を図った。跳び箱運動の学習では、ねらいを達成するための方法を、器具を囲んで話し合う時間を位置付けた。（写真3）
- ボール運動領域の学習では、チーム内での作戦会議にホワイトボードを活用することで、児童の意見交換の充実と、話し合いの可視化を図った。また、このボードはゲーム後の振り返りにも活用するようにした。（写真4）
- 記録測定の際には、「補助係」「計時係」など役割を分担して学習を進めるようにした。測定前に目標回数等をお互いに発表するように指示し、達成意識の高揚やお互いを励まし合う雰囲気づくりを図った。（写真5）



【写真3：広原小】



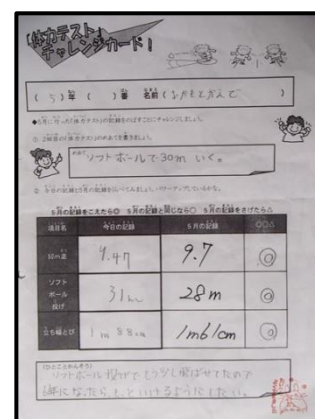
【写真4：狭野小】



【写真5：狭野小】

(3) 意欲的に運動に取り組ませるための手立て

- 体づくり運動の最初に、5月実施の体力テストの結果と、全国平均を比較させ、体力を伸ばす意欲をもたせた。
- 秋に実施した2回目の体力テストの際には、1回目の自分の記録を意識して測定に挑むことができるよう、個人カードの活用を図った。（写真6）
- 運動を行う際には、必要に応じてBGMを活用した。その際は、運動の題材に適したものであることに配慮した。
- 器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱運動）では、毎回同じ運動を授業に取り入れ、児童が自分の成長を感じられるようにした。また、跳び箱の高さや幅の違うロイター板を並べて置き、児童が選ぶようにすることで意欲を高めるようにした。
- 体づくり運動の「ねらい2」の段階では、用具等を工夫させ、負荷を重くするなどの練習方法を考えさせた。いろいろな用具を試しながら、意欲的に取り組む姿が見られた。
- 落ち込んでいる体力を伸ばすための運動を自分たちで考えさせ（セルフプランニング）、意欲的に運動に取り組めるようにした。



【写真6：広原小】

5 研究の成果と課題（○…成果、●…課題）

- 授業において、課題を明確にし、課題について児童が話し合い、解決する時と場を設定することで、児童は運動に対する満足感を高め、日常的に体力向上に取り組む姿が見られるようになった。
- 日常的に体力の向上を図るためのコーナー（場の設定）等を工夫する必要がある。
- 各学校の取組、備品情報の共有を行い、指導に生かしていく必要がある。